

Bさん(横地分類A1)は、近くで歌いかけや語りかけをしていると、顔や視線を向け興味を持って聞いている様子があります。そして、活動で職員がBさんの横に座ると何か期待しているような表情がみられます。Bさんは以前から揺れたり触れられたりすることに笑う様子があり、タッチングは心地良いだけのもののようでした。Bさんに歌いかけのリズムが感じられるよう、「幸せなら手をたたこう」の合いの手のところで体をタッチしながら歌うとリズムを感じながら歌いかけをよく聞いている様子でした。またタッチングだけでなく、歌のリズムに合わせた職員の動きを見て楽しむ活動を行いました。「大きな栗の木の下で」を歌いかけると職員の方を見ながらよく聞いています。歌に合わせて職員が左右に体を揺らしたり、手を膝に置いたりする等の身振りや手振りの変化を感じ、目を大きくさせよく見えています。歌いかけに合わせた動きの変化を感じながら集中して見ているようでした。



新入職員の紹介

●あおば 久米 孝枝

10月より藤沢ウエルフェアタウンの藤沢愛光園からあおばに異動となりました。大学時代より障害児保育について興味があり勉強してきました。私が特に力を入れていたことは自閉症の子供との関わりです。特にあおばでは幼児が多いため、手遊びや遊びの発展を考えながら、利用者様一人ひとりとの関わりを大事にして行きたいと思っております。今までは高齢者の施設で勤務をしており、分野が違うのでご迷惑を掛けることもあると思います。一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。

●あおば 秋田 みちる

11月から、おおぞら3号館の「あおば」で働かせて頂いています。老人介護との違いを感じながら、新しい発見もあり、あつという間に1週間、1ヶ月と過ぎていきました。慣れないこともたくさんあり不安もありますが、職員のみなさんが優しく私は恵まれていると感じています。今、3ヶ月が経ちましたが本当に早

児童発達支援センターひかりの子で 保育所等訪問支援事業を始めます。

平成27年4月1日より、児童福祉法に基づいた「保育所等訪問支援事業」を開始します。

この事業は、児童発達支援センターに必要な地域支援の役割を担うものです。地域にある幼稚園や保育園、小学校などに通っている重症心身障害のある児童に対して、幼稚園等に訪問し、その児童が集団生活に適應できるように専門的な支援を行います。

かったです。重症心身障害者といってもコミュニケーションのとり方や介護の仕方など、関わり方は、一人ひとり違うので、戸惑ったり悩んだりする日もあります。職場の先輩方の動きや、利用者様との関わる姿を見て学ぶことが多いです。まだまだ勉強することがたくさんあります。利用者様が笑顔で楽しく活動できるように、私もがんばります。よろしくお願いたします。

「小さな親切」運動

平成27年3月7日(土)、「小さな親切」運動静岡県本部の皆さんが、クリーン作戦の一環で窓ガラス清掃におみえになりました。

また、この奉仕活動に先立ち、「小さな親切」運動静岡県本部から、昨年に続いて今年も車イスを1台寄贈していただきました。頂戴した車イスは、施設を利用される方のために、大切に活用させていただきます。

職員一同、感謝申し上げます。



苦情解決委員会より

2014年10月~12月

苦情はありませんでした

	1月	2月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	99名 (533日)	97名 (529日)
日中一時支援利用者数 (延べ利用日数)	2名 (9日)	5名 (14日)
ボランティア参加人数 (グループ数)	14名 (3グループ)	15名 (4グループ)
実習者数 (グループ数)	3名 (1グループ)	19名 (3グループ)